

小熊秀雄没後80周年記念企画展 (第23回旭川文学資料展)

小熊秀雄と

旭川の詩人・歌人たち

大正期から昭和初期の旭川で活躍した文学者を紹介



円筒帽詩会 昭3年 前列左から小熊秀雄,二人おいて鈴木政輝,小池栄寿



旭川歌話会新年歌会 昭3年 二列目右から小林幸太郎,小熊秀雄,小池栄寿,一人おいて酒井広治

2020. 9.15 火 ~ 2021. 1.30 土

会場 旭川文学資料館 (入場無料)

〒070-0044 旭川市常磐公園 旭川市常磐館
お問い合わせ = ☎ / fax 0166-22-3334
(運営団体 NPO法人旭川文学資料友の会)

◆開館時間 10:00~16:00 ◆休館日 日曜・月曜・祝日・年末年始

【記念講演会】10.10 (土) 13:30~

旭川市常磐館2階講堂にて (定員40人、参加無料)

演題「旭川歴史市民劇と『ゴ・ルン・江イ』を生きる文化人」

講師 那須 敦志 氏 (旭川歴史市民劇「旭川青春がライイ・
ザ・ゴ・ルン・江イ」総合プロデューサー兼脚本担当)

※感染拡大防止のため、マスクの着用をお願い致します。

尚、臨時閉館や、会期を変更する場合がありますので、ご了承ください。

今野大力没後85周年・旭川開村130周年

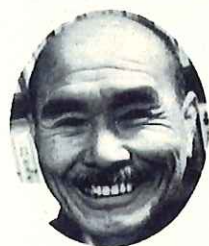
◆主催 旭川文学資料館

**小熊 秀雄 (おぐま ひでお) 1901 (明 34) ~1940 (昭 15) (詩)**

小樽市で生まれ、樺太で10代をすごし、20代はじめに姉をたよって旭川に居住。以後約7年間、旭川新聞社記者として旭川で過ごす。詩、短歌、童話、掌編小説をつくり旭川新聞紙上などに発表。絵画も描く。昭和3年上京。長編叙事詩、諷刺詩などで独自の分野をきりひらく。漫画台本、美術評論なども手がけるが結核のため東京で死去。詩集に『小熊秀雄詩集』『飛ぶ櫓』『流民詩集』。当館に展示している晩年まで使用した机、詩友に出したハガキ、描いた水彩画は道外からの観覧者も多い。

**今野 大力 (こんの だいき) 1904 (明 37) ~1935 (昭 10) (詩)**

宮城県生まれ。3歳で家族と旭川へ。以後転居し16歳のときから再び旭川に居住。新聞社給仕、旭川郵便局の小包係として働く。小熊秀雄が担当の旭川新聞文芸欄や中央詩誌に初期は抒情詩作品を多く発表。しだいに社会的傾向をつよめ、昭和2年の上京後はプロレタリア文芸誌の編集にたずさわるが、昭和7年の治安維持法による一斉取り締まりで検挙される。そのときの拷問がもとで結核を併発し、東京の療養所で死去。

**齋藤 瀏 (さいとう りゅう) 1879 (明 12) ~1953 (昭 28) (短歌)**

長野県安曇市生まれ。日露戦争に歩兵中尉として従軍、作歌を志す。1908(明治41)年、結婚。翌年、長女、史、東京四谷区で生まれる。1915(大正4)年、第27連隊大隊長として、旭川第七師団に赴任。1924(大正13)年、第七師団参謀長として再赴任。1926(大正15)年10月、若山牧水夫妻が瀏の官舎に宿泊。翌月、酒井広治、小熊秀雄らと、旭川歌話会を発足させる。二・二六事件に連座、入獄。1939(昭和14)年、歌誌「短歌人」を創刊主宰。歌集に『曠野(あらの)』『霧(き)華(ばな)』など。著書に『獄中の記』、『悪童記』ほか。

**齋藤 史 (さいとう ふみ) 1909 (明 42) ~2002 (平 14) (短歌)**

東京四谷区で、父齋藤瀏、母キクの長女として生まれる。軍職にあった父瀏にともない旭川に居住。1915(大正4)年、北鎮小学校1年に途中入学。6年生の二学期(大正8年)まで在籍。同級生に二・二六事件で中心的な役割を果たした栗原安秀、二年下に坂井直がいた。1924(大正13)年、再び旭川へ。1926(大正15)年、若山牧水が瀏の官舎に宿泊し春光台他を散策、そのとき牧水が史に作歌を勧める(史17歳)。また、旭川歌話会で酒井広治や小熊秀雄を識る。1940(昭和15)年、第一歌集『魚歌』を刊行。他歌集に『歴年』、『密閉部落』、『ひたくれなゐ』、『秋天瑠璃』など多数。随筆集に『春寒記』、『遠景近景』など。

**酒井 広治 (さかい ひろじ) 1894 (明 27) ~1956 (昭 31) (短歌)**

福井県生まれ。1888(明治21)年、父と共に旭川に来住。東京歯科医学専門学校卒。在学中、北原白秋に師事する。1918(昭和7)年、日本橋で歯科医院を開業。1921(大正10)年、父の意志により旭川に帰る。1937(昭和12)年、旭川信用金庫理事、のち初代理事長となる。北原白秋、吉植庄亮、生田蝶介、若山牧水らの来旭をうながし、1926(大正15)年には齋藤瀏、小熊秀雄らと旭川歌話会を創設。戦後は旭川発行の歌誌「あさひね」顧問となる。1954(昭和29)年、第一歌集『雪来る前』を刊行。

各 学 校 の 詩 人 ・ 歌 人 た ち**旭川中学**

- 鈴木 政輝 (すずき まさてる)
1905(明 38)~1982(昭 57) (詩)
- 小池 栄寿 (こいけ よしひさ)
1905(明 38)~2003(平 15) (詩・短歌)
- 瀧岡 路人 (かたおか ろじん)
1904(明 37)~1986(昭 61) (短歌)
- 平岡 敏男 (ひらおか としお)
1909(明 42)~1986(昭 61) (詩・短歌)

旭川商業

- 下村 保太郎 (しもむら やすたろう)
1909(明 42)~1985(昭 60) (詩・短歌)
- 中家 金太郎 (なかいえ きんたろう)
1908(明 41)~1954(昭 29) (詩)
- 西倉 保太郎 (にしくら やすたろう)
1909(明 42)~1970(昭 45) (詩)

旭川師範

- 桜井 勝美 (さくらい かつみ)
1908(明 41)~1995(平 7) (詩)
- 入江 好之 (いりえ よしゆき)
1907(明 40)~1989(平元) (詩)
- 海老名 礼太 (えびな れいた)
1906(明 39)~1962(昭 37)? (詩・短歌)